

気象界消息

本欄には、気象（地球物理関係をふくめて）に関する一般ニュースをのせておりますが、内外気象関係者の海外渡航、来日等に関し、脱落する場合がありますので、今後は氏名、日時、目的その他について御通知下さい。

宛先は 大田区東京国際空港内 東京航空地方気象台 山口 協（電話 741-2801）です。

1. 気象電気用ラジオゾンデ国際比較観測

3月10日から24日まで、アメリカ、ニュージャージー州 フォートモンマウスで、気象電気用ラジオゾンデ国際比較観測が開催され、日本からは気象庁高層課、大田正次課長、内川規一調査官の両氏が出張した。大田課長はイギリスおよびドイツに次年度比較観測打合せのため、会議終了後、渡欧する。

2. 日米科学協力研究事業による第2回台風・ハリケーン研究会議の開催

アメリカ、フロリダ州マイアミで台風・ハリケーン研究計画会議が3月16日から開催され、日本からは、防災科学センター 和達清夫所長、気象研究所の荒川秀俊予報研究部長、高橋喜彦物理気象研究部長、気象庁 淵秀隆海洋課長、東北大 山本義一教授、京大 山本竜三郎教授その他滞米中の関係者が出席する。

また淵課長は会議後、渡欧し、イギリス、フランス、スイス、イタリアで波浪計の検討をおこなう。

3. 日米科学協力事業による雲研究観測の実施

アメリカのアッシュビル、シカゴで上記観測がおこなわれる。日本からは気研 井沢竜夫研究官が3月13日から29日まで出張参加する。

4. 太平洋岸一帯の雪

今冬、太平洋岸で最深になった雪が2月24日から25日にかけて降りしきった。四国、紀伊では10cmの深さになり、東京、大阪、名古屋等は7~8cmも積った。

5. テリのピラリカ火山噴火

3月4日、サンチャゴの南500マイルにある、ピラリカ火山が噴火し、溶岩の流れのため、附近の村の60戸中50戸が埋没した由。

6. 地震に関するセミナー

日米両国の地震、地質学者が集まっての地震セミナー

が3月9日東京で開催された。会議は12日間おこなわれるが、その後半は京都に移って開かれた。これは日米科学協力事業によるものである。

7. スマトラの洪水

約2週間 降り続いた雨のため、スマトラ東海岸地方に洪水が発生、50,000人が被害をうけたと3月9日朝、報告された。

8. 気象庁ビル落成

3月12日、気象庁ビルが完成、落成式がおこなわれた。総工費196,200万円、地上8階、地下2階、延面積28,860平方メートルである。

9. 濃霧、東京北部をおそう

3月12日朝、荒川・江戸川方面に濃霧が発生、視界は50メートルにさげられ、列車が遅延するなど、11時頃まで混乱した。

10. トルコの洪水

3月9日、トルコに洪水発生、2名が死亡、9名が負傷したとのこと。この洪水は局地豪雨のためおこったものでトルコ放送を通じて報導された。

11. オハイオ河の氾濫

3月13日、金曜日、今世紀3度目の最悪の洪水が、アメリカのオハイオ河の氾濫のためにおこった。死者11名と500万ドルにおよぶ被害が発生、洪水の被害は7つの州にひろがっている。

12. アルゼンチンにも洪水

3月14日には、アルゼンチンにも洪水がおこり、Chumbica 町では8名の死者をだしたという。

13. スイス西部の地震

チューリッヒからジュネーブにわたる、スイス西部地方に地震があり、煙突がたおれ、ショーウィンドーがわれたりした。震央は Luerne 湖の南である。

14. 春1番おくれて来日

3月17日、彼岸の入りの日に、春1番が日本に吹きこんできた。例年に比べてかなりおそい春1番である。

15. コスタ・リカでの噴火

3月22日、コスタ・リカのサン・ホセに降灰があった。これは Iraxu 火山の噴火によるものである。